

縄文時代の地形のようす

I-6



I-6

弥生時代の地形のようす

I-7-①



I-7-①

名取川下流域は、縄文時代の温暖化に伴う海面上昇期であっても、名取川が比較的急流河川であったので、大量の土砂を下流域に運び、その堆積作用により、早くから平野が開けていました。弥生時代には、陸の方に侵入してきた海水もかなり退き、さらに名取平野が大きく広がりました。

名取川沿いに発達した自然堤防の微高地は、砂質の地盤のため、周辺の土地に比べ排水条件がよかったようです。その周辺の後背湿地は、排水条件が悪い粘土質の地盤であったようです。

また、前の時代から始まった海水面の下降によって、丘陵付近に取り残された沼や湿地帯は、弥生時代に入っても残っていたようです。

I-7-②